

2023年1月16日 ローカルファーストシンポジウムin和歌山 資料

ローカルファーストが 日本を変える

一般財団法人ローカルファースト財団 理事長
亀井工業ホールディングス株式会社 代表取締役
日本商工会議所まちづくり・地域経済循環推進専門委員会委員長
茅ヶ崎商工会議所 会頭
亀井信幸

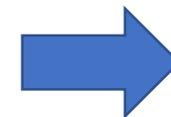
1. 「ローカルファースト」との出会い



ローカルファーストの考え方

ローカルファーストとは

「地域一番」「地元優先」「地産地消」



一例に過ぎない

- **これからの社会を変えていくことのできる「価値観」**
- **「ライフスタイル」の提唱**
- **豊さをもたらすための選択の基準**

日本の幸福度

◀ 国連の世界幸福度ランキング 2021

日本は153ヶ国中 **54位**

G7中7位(最下位)

ここ数年、低下傾向 初回（2012年）40位



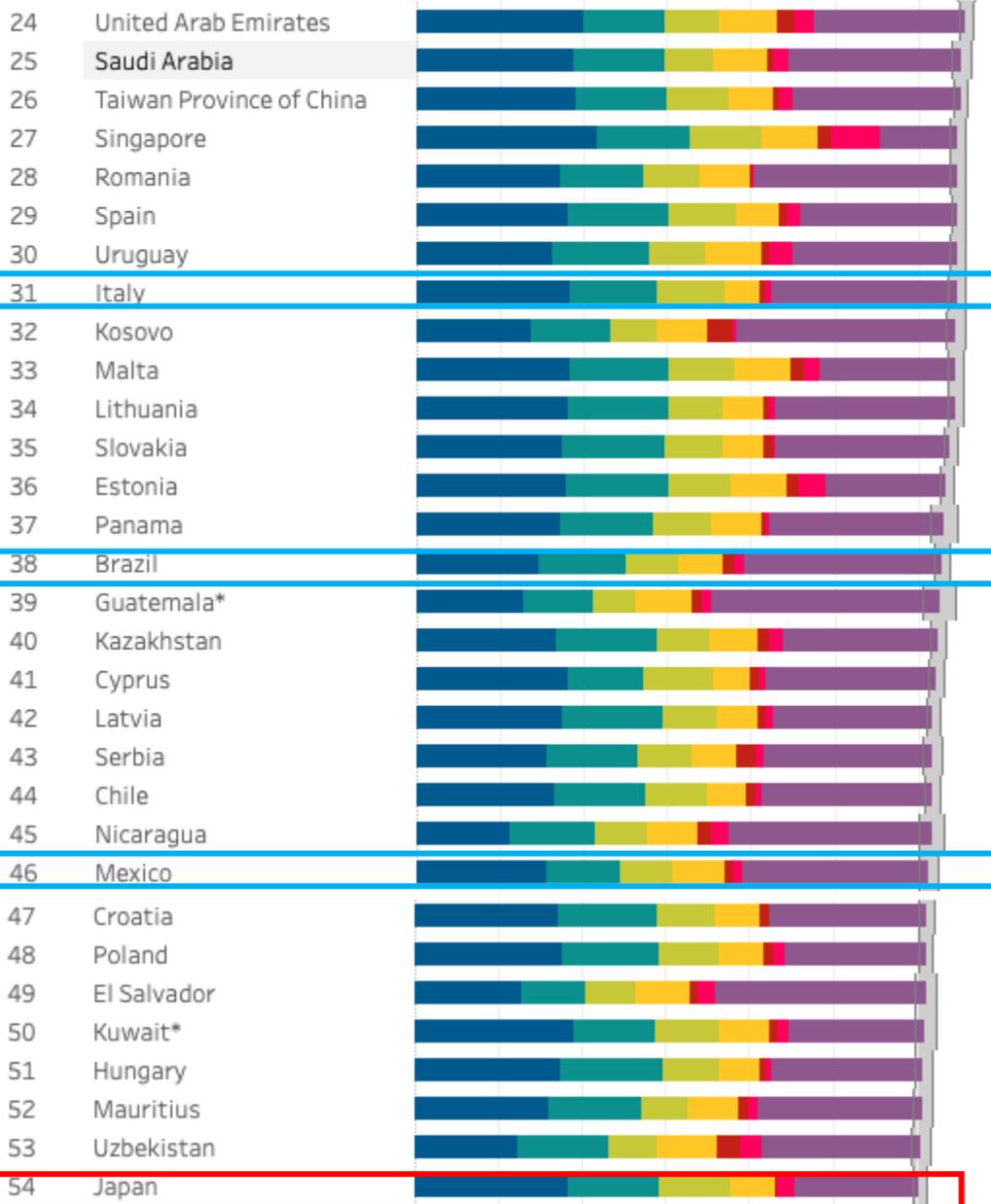
日本は健康寿命などの数値が高いわりに
全体としての幸福度が低いのはなぜか？

世界の一人当たりの名目GDP

世界の一人当たりの名目GDPランキング

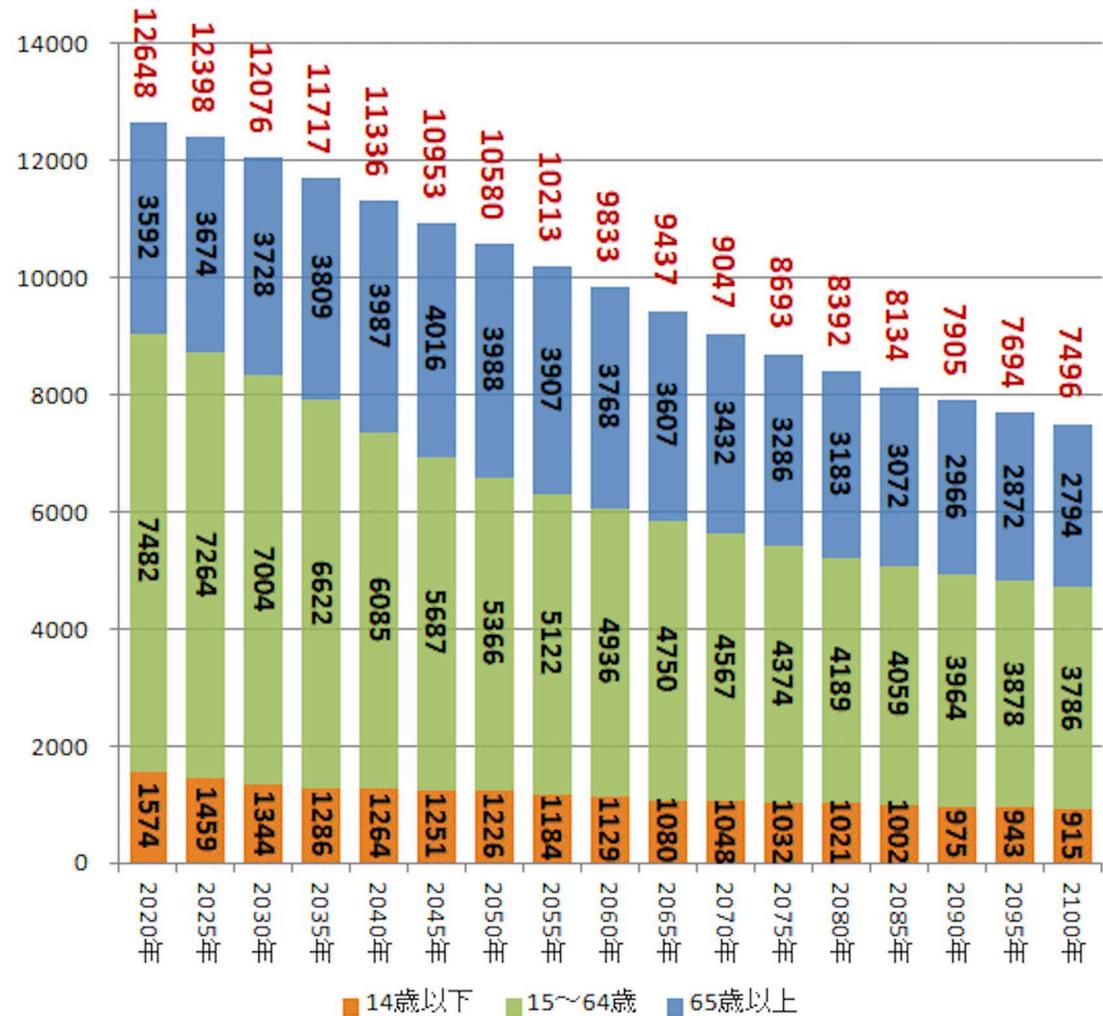
日本は、**2021年** 185ヶ国中 **28位**

ここ数年、低下傾向 （2000年 **2位**）



日本の現状 – 課題先進国の日本 –

- 少子高齢化の加速度的進行
- 巨額な財政赤字
- 労働生産人口が減少
- 産業構造の変化
- 東京一極集中
- 格差社会
- 地方経済の疲弊
- 円安の進行
- 上昇しない賃金水準



ローカルファーストとの出会い

- かつての高度成長期が推進してきた大量生産、大量消費の構造は、「より安く、便利に」という価値観を植え付けてた
- 結果、世の中に希望を見出しづらくなった市民が将来設計を描けなくなっている
- 一方で欧米のまちを訪ねると、豊かなまちがいくつもあることに気付く

違いは何か？

ローカルファーストとの出会い

- まちづくりのヒントやモデルを探して「ビーチのあるまち」という茅ヶ崎との共通項のあるロサンゼルス、サンタ モニカ、カーメル、サンディエゴなどの視察を重ねた
- それぞれ「豊かさの本質」について考えさせられたが、**ポートランドでの経験は決定的**

**ポートランドでは市街地に“ナショナルチェーン”が見当たらない
ヨーロッパの地方都市も同様**

ローカルファーストとの出会い

◆アメリカオレゴン州ポートランド◆
「貯金は10,000ドルあれば十分リッチ！」
将来への不安を持たない市民が多数



ローカルファーストとの出会い

◆ポートルランド◆ サタデーマーケット

- ・ 土日だけの開催
- ・ 地域の特産品や工芸品、食品やお菓子など



地元スーパー

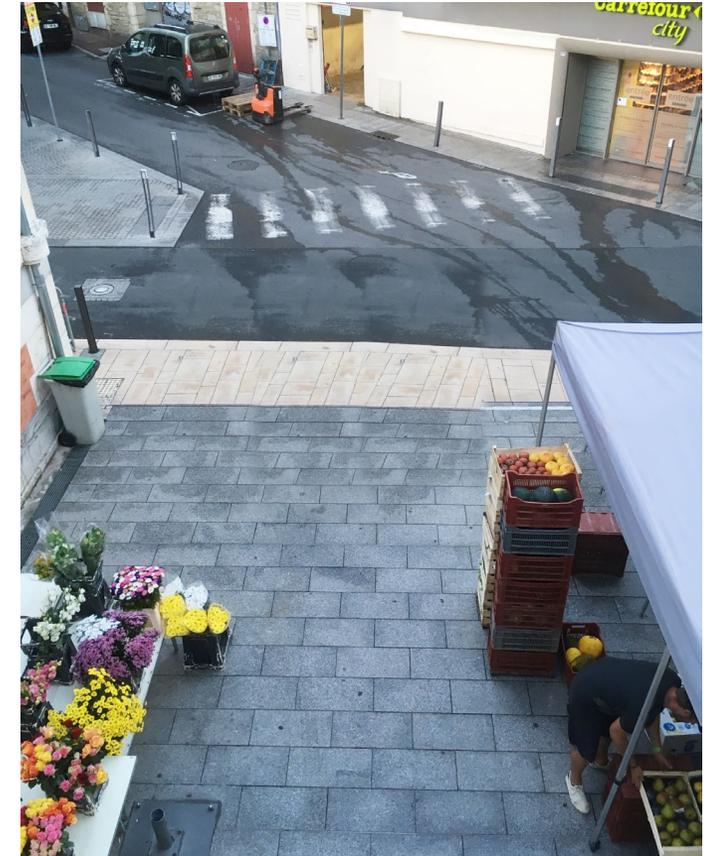
- ・ 地産地消の観点を重視
- ・ 貸しスペースでは地元住民のサークル活動も

ローカルファーストとの出会い

◆ヨーロッパでは店舗による商品のすみ分けを明確にして小売店をサポート。大型店にしか置かない商品、小売店にだけしか置かない商品がある。



大手スーパーと小売りの市場が並んでいる
フランス・ビアリッツ



ローカルファーストとの出会い

◆フランス アンジェ◆
フランスで3年連続で住みやすいまち
第1位に選ばれたこともある。
人口15万人の都市



◆フランス ボルドー◆
人口25万人の都市。写真は平日の商店街の様子。
市街地の自家用車の乗り入れを規制。
安心、安全で歩ける空間をつくったら、まちなかに
人があふれ商店街が賑わう。

ローカルファーストとの出会い

効率的な交通システムでコンパクトな都市形態。排気ガスの低減



道路の中央に
自転車道

ポートランドの路面バスは市の中心地では無料



アンジェでは「歩いて暮らせるまち」を目指し導入。完全バリアフリー

ローカルファーストとは

最初こそ不便でも、
地域資本の店で買い物をして地域のレストランで食事をし、自分たちの手で
「まち」を美しく保つというポートランドやヨーロッパの人々の価値観、

すなわち 「ローカルファースト」が創り上げた「まち」の形

「自分たちの町に愛情と誇りを持った選択と行動をする」

これこそがローカルファースト

ローカルファーストとは

私たちが自分たちの住む「まち」の未来を考える時

- いかに地域を理解しているか？
- 「まち」の人、物、場所、文化などに愛情をもっているか？
- 人々のニーズに寄り添い続けられるか？
- 皆が真に豊かに暮らしている情景をきちんと想像できているか？

といったことが大切で、それを導きだす価値観

これこそがローカルファースト

ローカルファースト財団



理事長 亀井 信幸

住所：神奈川県茅ヶ崎市幸町5-8

電話：0467-57-8100 <http://www.local-first.info>

設立：平成26年6月10日

役員一部紹介

副理事長 阿部眞一（有限会社和泉屋菓子店代表取締役 全国商店街振興組合連合会副理事長）

理事 足立基浩（国立大学法人和歌山大学副学長）

鵜殿裕（株式会社日本経済研究所地域・産業本部上席研究主幹）

河木照雄（豊田まちづくり株式会社代表取締役）

桐山章伸（株式会社鎌倉まめや代表取締役）

古川康造（高松丸亀商店街振興組合理事長）

眞壁潔（株式会社湘南ベルマーレ代表取締役会長）

松本大地（株式会社商い創造研究所代表取締役）

三澤ひとみ（乃羽バレエ代表）

藻谷浩介（株式会社日本総合研究所主席研究員）

深谷宏治（レストランバスクオーナーシェフ）

渡辺久夫（株式会社CKTホールディングス代表取締役）

山崎正美（一般財団法人地方自治体公民連携研究財団理事）

ローカルファーストという理念をより多くの人々に広め、語り合い、交流を広げ、新たな価値観によるライフスタイルを生み出すことで、地域に希望と活力をもたらし、持続可能な未来を拓き、健康で、明るく、豊かな社会をつくることを目的として、「一般財団法人ローカルファースト財団」を設立。

ローカルファースト財団のあゆみ

- 2013年 「ローカルファーストが日本を変える」を発行
- 2015年 一般財団法人ローカルファースト財団を設立。茅ヶ崎を中心にローカルファーストの普及啓発事業（フォーラムの開催、ジャーナルの発行等）を開始
- 2020年 財団の活動を茅ヶ崎中心から全国規模にひろく展開するため、体制の確立や日本商工会議所等との連携を開始
- 2021年 日本商工会議所主催・一般財団法人ローカルファースト財団協力・国土交通省後援による「ローカルファーストなまちづくりシンポジウム～地域の魅力を再発見し、魅力あるまちを育てていくために～」を開催
- 2022年 国土交通省官民連携都市再生推進事業として全国3か所（北海道富良野市・長野県佐久市・高知県高知市）でデザインキャンプを開催
富山県富山市で「ローカルファーストシンポジウムin富山～行政と民間が連携して地域を育てていくために」を開催

「ローカルファーストが日本を変える」を出版

■平成25年12月発行



日本商工会議所のローカルファーストに対するスタンス

日本商工会議所 2021年度 事業計画の概要

基本的考え方・課題

新型コロナにより、東京一極集中のリスクが認識され、地方移住や副業・兼業による転職なき移住、企業の地方移転への関心が高まっている。こうした動きを具現化させるため、

地域の魅力を高めるローカルファーストのまちづくりが重要である。

地方創生の再起動①

民間主導のまちづくり・まち育てへの商工会議所の参画を推進する

- **ローカルファーストの観点からのまちづくりを推進**するため、地域診断サービスやこれに合わせて行う啓発およびワークショップの開催等を通じ、各地商工会議所に対して、2021年3月に策定した「民間主導のまち育て・再生実践マニュアル」の活用を促す
- 民間の知恵や資金を活かしたPPP/PFIの先行事例の紹介や、ガイドブックによる 情報提供を行う



2. 「ローカルファースト」は「人々をより幸せにし、 日本を豊かにする価値観」

ローカルファーストな価値観

「パンをどこで買いますか？」



【A】 コンビニ

24時間利用可、味などの商品規格も安定均一、大量流通で価格も想定内。

【B】 大手スーパー

品揃えが良く、大量仕入により価格が抑えられる⇔売上は首都圏にある運営企業や郊外の工場、原材料費は外国へ。流通コスト要。

【C】 地元の個店



地元に所在する店でも地元にお金が落ちない

原材料を含めた生産者の顔が見える。保存料を使わず、季節に合った食材を楽しむことができる。人同士のコミュニケーションの活性化。

【D】 地元スーパー

大手スーパーと同じ程度の買い物ができる。



地元で確実にお金が回り、経済を支える

「駅までどうやって行きますか？」

1. 駅前の混雑事情や安全面を考慮すると、公共交通機関を利用することも選択肢の一つ。
2. 一方、バスや車は環境に優しい選択とは言えない。燃料費も海外へ流出してしまう。
3. 時間や体力に余裕があれば、環境にも優しい自転車や徒歩を選択することで、見過ごしていた「まちの魅力」を発見できるかもしれない。お店の品揃えなどを見ることが出来る。
4. 大切なのは「**何を選択するべきかを一人一人がきちんと考えること**」。
5. 便利だけを優先した毎日の無意識の行動を見直して、地域に優しい選択をするライフスタイルを取ることが大切。



ローカルファーストな価値観 - カフェと自動販売機 -

欧米では自販機やコンビニは見当たらない。
その代わりに、至る所にカフェがある。
そうして地域の経済を回している。

自販機かコンビニかカフェか、どの選択が真の
豊かさといえるのか？ 皆さんの選択は？



ローカルファーストな価値観 -G20環境サミットでの取組-

◆2019年6月15・16日に軽井沢にて開催されたG20環境サミット 会場内での取組み

- ・間伐材を使用した木製ストロー使用。
- ・プラスチック容器、ペットボトルの使用禁止。
- ・会場内から自動販売機を撤去。

日本は環境対策を前面に打ち出してマイクロプラスチック削減に向けた国際的な取組みに合意しました。一方、私たちの身の回りには自販機やペットボトル、プラスチック容器が溢れかえっています。

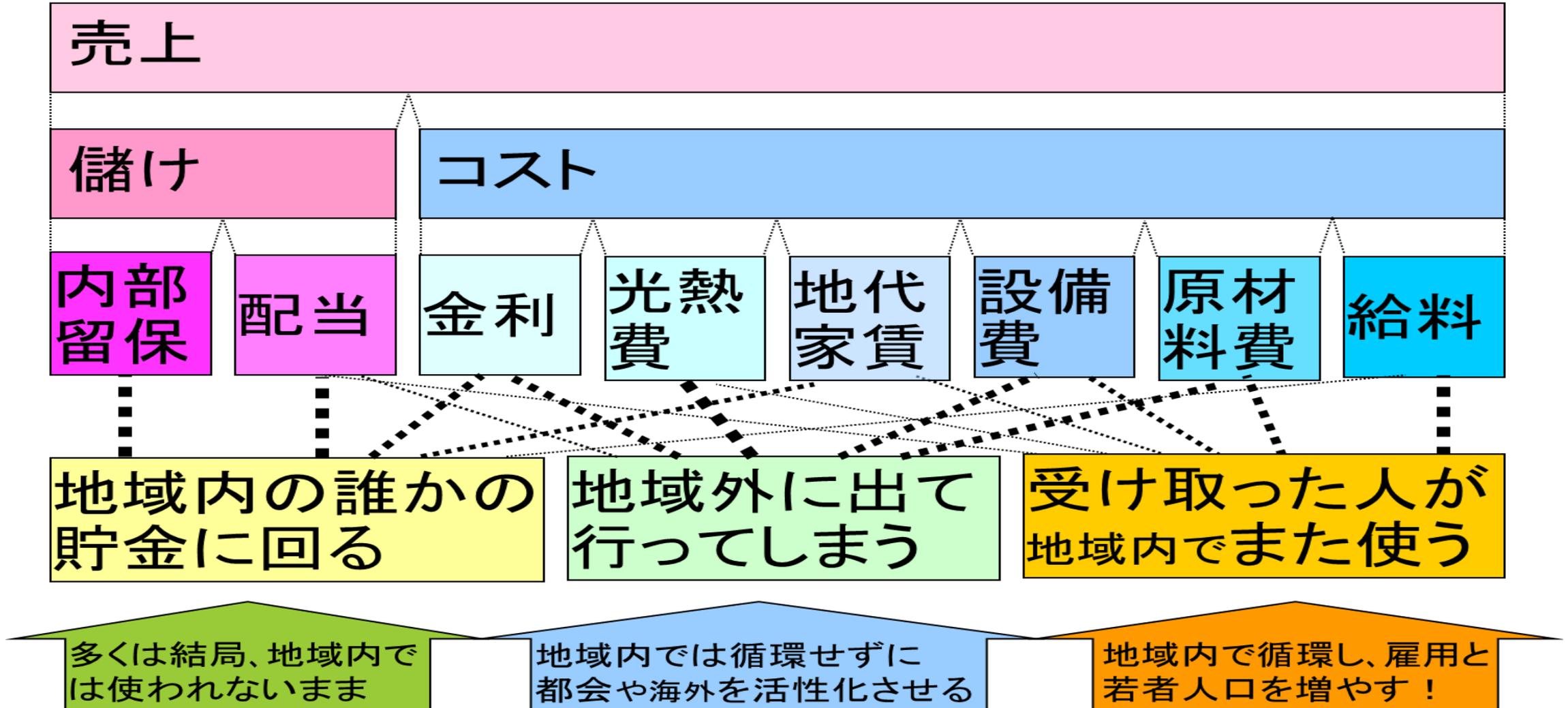
欧米では自販機やコンビニは見当たりません。その代わりに、至る所にカフェがあります。そうして地域の経済を回しています。

自販機かコンビニかカフェか、どの選択が真の豊かさと言えるのでしょうか。皆さんはどれを選択しますか？



ローカルファーストな価値観 -お金の使い方-

お金の使い方次第で
地域が変わる



ローカルファーストな価値観 -お金の使い方-

お金の使い方次第で地域が変わる

茅ヶ崎市民1人が年間に消費する額を250万円とすると・・・

→その1% (=2.5万円) で、市内産の品を買えば、+60億円が市内に回る

→これは給与+福利厚生400万円/人の雇用換算で1, 500人分の額！

茅ヶ崎市民1人が年間に払うエネルギー代を30万円とすると・・・

→その10% (=3万円) の省エネを進めれば+72億円が地元に戻る

→これは給与+福利厚生400万円/人の雇用換算で1, 800人分の額！



◆地域の食材を選び抜く ラ・ターブル・トリウミ

茅ヶ崎の住宅街に独立開業したフレンチレストラン、ラ・ターブル・ド・トリウミの鳥海シェフは、地元のお客様を中心に、まちに支えられていると言います。料理は世界中の厳選された旬の食材を最高の状態で仕入れ、素材のうまみを最大限に引き出す最適な料理方法で提供。地元の食材にこだわる考えもあれば、世界各地から地域の最高の食材を吟味して集めることで、より魅力的なものが出来上がります。そして、他の地域を支えることにも繋がる。**他の地域のカも借りること、これもまた「ローカルファースト」の原則の一つであり、隣人・地域を大切にすること。**

ローカルファーストを考える - 事例 2 -

◆アジア中華 加納ダイニング

地元の若者が独立をして自分のお店を出す際に、物件をさがすのことは簡単ではありません。

写真はこの物件のオーナーが若者にチャンスを与え

若者はチャンスを活かしてお店を増やしていく。

これもローカルファーストの価値観であります。

古い一軒家を改装した店頭には地域にむけた熱いメッセージがこめられています。



ローカルファーストを考える - 事例3 -

◆トヨタモビリティ神奈川 海老名店

従来の販売店としての役割を見直し、より「地域の交流拠点」となることを意義とした設計でリニューアル。休日はマルシェの開催などで親子の来店が増加。店舗としての売り上げも約1.5倍へ。



ローカルファーストを考える - 事例 4 -

- ◆ **トラックの走っていないアメリカの高速道路。
日本は必要以上にモノの移動が多いのではないのでしょうか。**



地産地消 フードマイレージ
排気ガスによる環境汚染 etc



道路混雑 道路のいたみ・維持コストがかかる

◆埼玉県 所沢プロペ商店街の事例

ベッドタウン所沢のプロペ商店街は、全長300mに200店舗が並ぶ、賑わいある商店街。しかし、**昔からの地元のお店は3店舗しかありません。**

家業をやめて、テナントに貸すことによりチェーン店ばかりになっている。

その結果、チェーン店が多く面白みがない個性がないと市民からは言われている。

人口減少の中でいかに所沢に愛着を持ってもらい、住み続けてもらえるか。

プロペ商店街は、市民が所沢のいいところを再発見できるように、「ローカルファースト」を取り入れる挑戦を続けている。





3.地域経済循環について





地域経済循環

地域の経済は、モノやサービスを生産するだけでなく、生産によって得られた所得が家計・企業に分配され、分配された所得を家計・企業が消費や投資をする経済循環によって成り立っている。

**地域の経済を維持・拡大していくためには、
「地域経済循環」が必要**

地域経済循環

地域 経済循環



稼いだお金を分配



生産・販売して稼ぐ



分配所得を支出（投資）

この循環を太く、強くしていくこと

地域経済循環を太く、強くするために

- 地域経済循環を太く、強くするためには、域外から所得を稼ぐとともに、稼いだ所得を地域に残すことが重要である。
- 地域で出来ることは地域で賄い、出来ないことは地域外に任せることが求められる。
- PPP/PFIについても、地域企業で出来ることは地域企業に任せるという基本姿勢が地域の活性化につながる。

(注:出来ないことまで地域企業に任せるということではない。)

地域経済循環率
70.5%

地域経済循環図 2018年

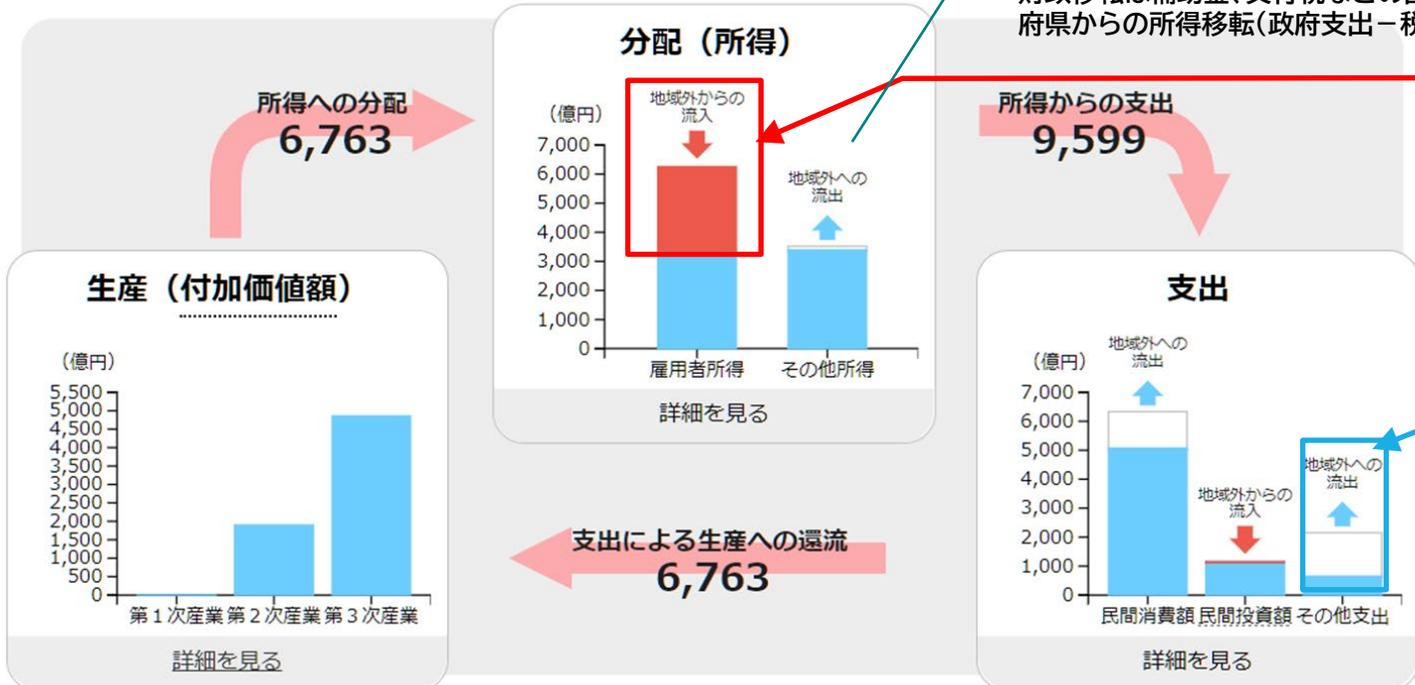
指定地域：神奈川県茅ヶ崎市

本社等 ▲524億円
財政移転 +344億円

財政移転は補助金、交付税などの国・都道府県からの所得移転(政府支出-税金)

地域住民が域外に通勤することで、
雇用者所得が流入

地域で販売されている商品・サービス
は、地域外からの移輸入に依存

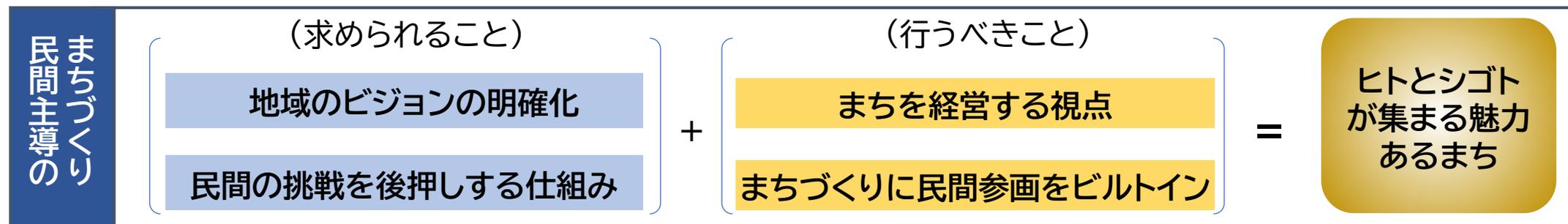


地方創生の実現に向けた基本的な考え方

人口減少は受け入れざるを得ないなか、地域経済の縮小問題を克服するためには、**住民1人当たりの所得向上**とともに、**まちの価値を高める**ことが、地方創生実現のカギとなる。

まちには有形・無形の資産があり、その価値を高めるためには、地域のビジョンを明確にし、民間の挑戦を後押しすることで、ヒトとシゴトが集まる魅力あるまちを創出することが必要である。

今こそ、**まちづくりの主導的役割を**、そこから得られる長期的なリターン（税収増等）を意識することが少ない行政から、事業経営の視点でコスト意識を持ちながら創意工夫する**民間が担うべき**ものへと、考え方を転換することが求められる。



住民1人当たり所得の向上

×

まちの資産価値の向上

=

地方創生の実現

地方創生の実現に向けて求められる具体的な取り組み

民間のまちづくり意欲を引き出す

地域の多様な主体がまちづくりに関与し、**まちづくり推進主体が自立的・主体的に活動できるようにすることが必要**

- (1) まちづくり会社等がまちづくりに専念できる環境整備
- (2) 商業放棄地の利活用に多様な主体が参画する機会の創出
- (3) 一極集中から多核化、そして自立型のまちづくりを

まちづくりに挑戦する民間を資金面等で支える

民間資金・ノウハウの徹底活用、個人保証に頼らずにすむよう資金調達の多様化、まちづくりに挑戦する初期負担の低減などが必要

- (1) **まちづくりを民間資金活用事業 (PPP/PFI) で実施**
- (2) クラウドファンディングの活用など資金調達を多様化
- (3) IoTやAI・ロボティクスなどを活用した新しい地域活性化手法の挑戦を促す「まちづくり補助金」の創設

新たな施策を積極的に活用し、既存施策を見直す

民間の創意工夫・ノウハウを取り入れるインセンティブ、地域の共生のための新しいルールづくりが必要

- (1) 地域再生エリアマネジメント負担金制度の活用促進
- (2) まちづくり関連補助制度に、民間の関与度合いに応じた優遇措置を追加
- (3) コンパクトシティ政策の再構築

地方創生の実現に向けて求められる具体的な取り組み事例

◆ 島根県浜田市の事例



ばい BUY 浜田運動



BUY 浜田運動ロゴマーク
商標の登録文字「はまだ」を登録。©2015 島根県庁。商標庁へ登録。産地・産物等の利用は、産地等から許可を得る必要があります。 元来にお買い得なキャラクターイメージしています。

浜田市「BUY 浜田運動」推進委員会

浜田市、浜田商工会議所、石炭商工会、浜田商工会、JAしまねいわみ中央地区本部、漁業協同組合 JFしまね 浜田支所、浜田魚農協同組合、はまた産産振興機構

「BUY 浜田運動」

「BUY 浜田運動」とは

地域内の経済循環をつくり、
 経済を活性化させることに
 より市民の暮らしを
 向上させる運動です。



浜田市内で生産・製造・加工された商品を多くの市民の皆さんに買っていただき、消費を増やすことで地元の中小企業に潤いを与え、所得を増やし、雇用が産まれます。そして、消費を増やすという地域内の経済循環をつくり、域外へお金が出ていくのを抑えることで地域経済の活性化を目指します。みんなが意識して実践することで、市民の皆さんの暮らしが良くなります。みんなの力で浜田市を元気にしましょう！

みんなの活動目標

～地域経済を活性化して市民の暮らしを良くしよう～

- 消費者** ▶ 地元のお店で買い物をしよう。
 ▶ 地元食材の良さを知ろう。
 ▶ 地元産品（農水産物や加工品）を買おう。
- 小売業者** ▶ 地元産品の消費拡大をめざそう。
- 生産・加工業者** ▶ 地元の原材料を活かした商品の生産・加工に努めよう。
- 行政、経済団体** ▶ 「BUY 浜田運動」の普及に取り組もう。



マンガでわかる BUY 浜田運動



「BUY 浜田運動」対象品

当面は食料品（生鮮食品、加工食品）からスタートします。

対象となる食料品

- 〔生鮮食品〕市内で生産、または水揚げされたもの。
- 〔加工食品〕市内の原料、または市内で加工されたもの。

「BUY 浜田運動」対象品取扱店の
 「運動対象品」を進んで買しましょう。





3.これまでのローカルファーストの活動について

茅ヶ崎でローカルファーストシンポジウムの開催

第1回 「ローカルファーストが日本を変える」

第2回 「魅力あふれる“茅ヶ崎”のつくりかた」

講師：松本大地氏（株式会社商い創造研究所 代表取締役）

第3回 「あなたのライフスタイルが茅ヶ崎の未来を創る」

講師：藻谷浩介氏（株式会社日本総合研究所 主席研究員 他）

第4回 「ローカル経済が日本をつくる」地域との「共創」から見えてきた未来

講師：富山和彦氏（株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO 内閣官房まち・ひと・しごと創生会議有識者 他）

第5回 「持続可能な新しいスタイルの再生まちづくり」～高松丸亀町商店街に学ぶ～

講師：古川康造氏（高松丸亀町商店街振興組合 理事長）

第6回 CHIGASAKI LOCAL FIRST TRIAL 「シェフズミーティング」

講師：田村なを子氏（アメリカオレゴン州ポートランドの自然食レストラン「Chef Naoko」シェフ）

第7回 「スポーツが健康なまちをつくる」

講師：奥寺康彦氏（株式会社フリエスポーツクラブ（横浜FC）会長）

第8回 「新しいワークライフスタイルを実現する茅ヶ崎資本主義へ」

講師：柳澤大輔氏（面白法人カヤック代表取締役CEO） 2018年10月24日開催

第9回 「ローカルファースト都市の挑戦」

講師：藻谷浩介氏（株式会社日本総合研究所 主席研究員 他） 2019年11月13日開催



これまでのローカルファーストの活動について

■第1回 「ローカルファーストが日本を変える」

平成27年3月11日(水) 18時～20時 / 茅ヶ崎市民文化会館大ホール

「パネリスト」

- 秋山弘子 氏 (東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授)
- 杉山愛 氏 (NPO法人パームインターナショナル湘南 理事長)
- 関幸子 氏 (株式会社ローカルファースト研究所 代表取締役)
- 松本大地 氏 (株式会社商い創造研究所 代表取締役)
- 平将明 氏 (元内閣府副大臣 / 自民党行政改革推進本部 副本部長)
- 服部信明 氏 (茅ヶ崎市長)
- 益永律子 氏 (NPO法人NPOサポートちがさき 代表理事)
- 都築佑介 氏 (公益社団法人茅ヶ崎青年会議所 2015年度理事長)
- 杉本洋文 氏 (東海大学工学部建築学科 教授 / 一般財団法人ローカルファースト財団 副理事長)

総合司会 KANA (FMヨコハマDJ) / コーディネーター 亀井信幸 (一般財団法人ローカルファースト財団理事長)

入場者 1020名 ★アンケート回答数 422件

出版1周年記念シンポジウム Local First
ローカルファーストが日本を変える
 茅ヶ崎から発信する新しいまちづくりのカタチ
 ローカルファーストは人生を楽しく生きる『魔法の言葉』
 2015年 3月11日(水) 入場無料(先着順)
 会場: 茅ヶ崎市民文化会館 大ホール
 時間: 17:00～19:00 (16:30開場)
 総合司会 KANA (FMヨコハマDJ)
 コーディネーター 亀井信幸
 ローカルファースト研究所
 TEL. 0467-57-8100
 FAX-WEB ハガキにて応募
 本チラシを裏面に記入の上、FAX-WEB ハガキにて応募
 本館コードをアクセスし、申し込みフォームから申し込みます。お申し込み後、申し込みが完了したことをお知らせし、下記へ郵送。申し込みは申し込み専用窓口にて受け付けます。
 〒202 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎1-10-1
 ローカルファースト研究所 シンポジウム
 申し込みフォーム
 申し込み専用窓口

熱いメッセージいっぱい 라이프スタイルマガジン!

茅ヶ崎 ローカルファースト ジャーナル

「ローカルファースト」という言葉をめぐりながら茅ヶ崎に生きる人たちの熱いメッセージを集め新しい茅ヶ崎を、茅ヶ崎の新しいライフスタイルを、私たちの手で作り出す。
そんな想いを込めて「茅ヶ崎ローカルファーストジャーナル」を発刊しています。



- 第1号 「食」がまちを変えている。
- 第2号 「ストリート」がまちを変えていく。
- 第3号 「お店」がまちをつかっていく。
- 第4号 ローカルスーパー」がコミュニティをつくる。
- 第5号 ローカルファーストが「居場所」をつくる。
- 第6号 ローカルファーストがつくる「食」のまち。
- 第7号 ローカルファーストでスポーツコミュニティを育む。
- 第8号 文化とライフスタイルがつくるローカルファーストなまち。
- 第9号 ローカルファーストが創る賑わいのあるまち。



茅ヶ崎

ローカル ファースト ジャーナル

2015
Vol.1
創刊号

「食べて」「買って」「考えて」
新しい茅ヶ崎をつくりだす。

熱いメッセージいっぱいのライフスタイルマガジン!

「食」がまちを変えている。



【ジャーナル第1号の想い】

2015年3月11日発行

消費を生み出す事業者、消費の中心にいる主婦(ママ)、そして未来の事業と消費を担っていく子どもたち。3つのグループに焦点を当て、ワークショップとグループディスカッションを重ね、このジャーナルを完成させました。まちを作っているのは誰なのか、主婦の選択肢とは何なのか、子どもたちに伝えていくべきことは・・・。「ローカルファースト」とは豊かな選択肢の提案です。誰のものでもない、茅ヶ崎発の考え方。それぞれの感じた「ローカルファースト」で、茅ヶ崎のまちをもっと楽しくしていきたいませんか?茅ヶ崎オリジナルのライフスタイルを提案しませんか?「ローカルファースト」は魔法の言葉です。是非皆さんも使ってみてください。「ローカルファースト」を合言葉に一つになりましょう!



Eat Local Buy Local Think Local First

CONTENTS

- 【茅ヶ崎「食」のワークショップ①】
個性的な「食」の店が茅ヶ崎を変えている。
- 【ポートランドの幸福度が高くなる食のローカルファースト】
- 【茅ヶ崎「食」のワークショップ②】
それぞれの店に歴史とこだわりがある。
- 【ママたちのメッセージ】
ママたちをつかむことで、まちは変わっていく
- 【子供たちとローカルファーストなお金の使い方を考える】
- 【大学生によるローカルファースト・ワークショップ】
- 【茅ヶ崎の自然と生きる人たちの、海と山の「言葉」】
- Information
茅ヶ崎ローカルファースト・シンポジウム
茅ヶ崎・ホノルル姉妹都市・交流特命大使・平田梨花さんのメッセージ
本誌作成にご協力いただいた方々
茅ヶ崎ローカルファーストエピソード



茅ヶ崎

ローカル ファースト ジャーナル

2015
Vol.
2

「歩いて」「見て」「考えて」
新しい茅ヶ崎をつくりだす。

熱いメッセージいっぱいのライフスタイルマガジン!
「ストリート」がまちを
変えていく。



【ジャーナル第2号の想い】

茅ヶ崎を駆け巡る歴史あるストリート、そして、住民が必要として形成された商店街。商店街は一つひとつの顔、一つひとつの商店で作られています。代が変わり継承する人、茅ヶ崎に何かを求めて新しく移り住む人たち・・・想いは様々ですが、このまちを愛し、まちのために何か出来ないかと、日々格闘を続けている一人ひとりです。
ローカルファースト研究会は商店を応援しています。それは事業者のみならずと共々考える、主婦の選択肢を増やす、子ども達に教育をするという新しいまちづくりの切り口です。一人ひとりが地域に優しい選択をしていけるように「ローカルファースト」を合言葉にひとつになっていきましょう。

2015年10月23日発行



Walk Local
See Local
Think Local First

CONTENTS

【茅ヶ崎のローカルファーストな12のお店からのメッセージ】
「自分のたのしいことをやる」ライフスタイルがローカルファーストなお店をつくる
【ローカルファースト・トークセッション】
ローカルファーストと茅ヶ崎ストリート文化
【浜見平で「ママたちの店づくり」がスタート】
第一回のディスカッション
【ローカルファーストの商店街が魅力のポर्टランド】
株式会社商い創造研究所代表取締役 松本大地
【将来を担う子供たちにローカルファーストを伝えるために】
【出版1周年記念シンポジウム「ローカルファーストが日本を変える」
開催結果報告
Information
6月にホノルルで開催された「まつりインハワイ」のレポート
本誌作成にご協力いただいた方々
ローカルファースト・シンポジウム開催案内

茅ヶ崎

2016
Vol.
3

ローカル ファースト

ジャーナル



暑いメッセージいっぱいライフスタイルマガジン!

「お店」がまちを
つくっていく。

「話して」「考えて」「行動して」
新しい茅ヶ崎をつくりだす

Local
First

【ジャーナル第3号の想い】

2016年3月24日発行

「get involved」傍観者にならず、主体的に関わること。
まちづくりは、人ごとではありません。理想やきれいなことを、上から&会議室の中から話すのではなく、是非現場に参加してください。それぞれの立場によって、出来ることは違うはずです…。
地域を優先する考え方は難しいことではありません。大手ナショナルチェーンではなく地域の商店で買い物すること、地域のレストランで食事をする、地域の食材を使うこと、地域のアーティストを育てること…。
地域の誰かを応援することで、豊かな精神、豊かなライフスタイルは育ちます。住んでいるまちを良くしていくことは、自分達の楽しい老後、子ども達の安全な未来にも繋がります。大事なのは一人ひとりの「ローカルファースト」な、価値観と行動です。



Talk Local
Think Local
Act Local First

CONTENTS

【特集：ローカルファーストな「お店」がまちをつくっていく】

- ① 素敵なお店の表情を楽しむ茅ヶ崎まち歩き
 - ② 茅ヶ崎は「ショップフロント」に魅力がある
 - ③ 素敵なショップフロントのお店に聞く
 - ④ 歩くことが楽しくなるまちへ
- 【特集：ローカルファースト研究会「空き店舗プロジェクト」】
- ① 12月25日に浜見平商店会に「ローカルファースト」オープン!!!
 - ② オープンまでのメイキング!!
 - ③ ハンドメイド&リサイクルで事業をスタート!
 - ④ 茅ヶ崎はクラフトの聖地

【完成しました。LOCAL FIRST MAP ぜひお使いください】

- 【交差点をデザインする!】
茅ヶ崎のストリート文化を発信する複合コミュニティ施設
【第2回ローカルファーストシンポジウム】
魅力あふれる「茅ヶ崎」のつくりかた 開催結果報告
【ローカルファースト研究会ポータルサイト視察報告】
Information
ホノルル姉妹都市交流・姉妹都市締結一周年
本誌にご協力いただいた方々
ローカルファーストシンポジウム開催案内



【ジャーナル第4号の想い】

2016年9月14日発行

茅ヶ崎だからつながれる! 「ローカルファースト」を合言葉に。

大事なのは、まず始めてみる。小さなトライ(やってみる)が、まちを巻き込み大きな流れを作っていく。それは、スタートさせることでつながりや仲間が増えていくから。同じ苦しみや、やりがいを持つ地域店の経営者。誰が勝つか、誰が商売敵かではなく、みんなで協力してできることは何なのか? お互いに刺激し合い、励まし合っていく事が、結果的にはまちに、自分の商売にとってもプラスとなって帰ってきます。オシャレな店、美味しい店、茅ヶ崎にしかないオリジナルの店。それはみんなの誇りです。まちを創る一人ひとりが地域商店を優先した選択を! 茅ヶ崎のまちのサポーターになりましょう!



Try Local
Work Local
For Local First

CONTENTS

- 【特集:ローカルスーパーが茅ヶ崎を元気にする!】
- 茅ヶ崎のローカルスーパー経営者4人によるワークショップ
- ママの声アンケート「ローカルスーパーへの期待」
- ローカルファーストによる共通価値の創造
- 松本大地さんから「地元スーパーのリーダーシップへの期待」
- 【特集:ローカルファースト研究会「空き店舗プロジェクト」】
- 気づけばそこに新しいコミュニティがあった!
- ローカルファーストでつながる、ローカルファーストでひろがる
- 想いを社会へつなげる人たち
- 【子どもが作る茅ヶ崎マップ】
- 小学生×大学生×ローカルファースト研究会
- 【第3回ローカルファーストシンポジウム】
- 「あなたのライフスタイルが茅ヶ崎の未来を創る」開催結果報告
- 【歩いて、見て、考えて…そして発見!】
- 藻谷浩介さんと行く「まち歩き in CHIGASAKI」Information
- 茅ヶ崎・ホノルル姉妹都市交流報告
- 本誌にご協力いただいた方々
- 次回ローカルファースト・シンポジウム開催案内



茅ヶ崎

ローカル ファースト ジャーナル

熱いメッセージいっぱいのライフスタイルマガジン!

ローカルファーストが
「居場所」をつくる。



「つながって」「楽しんで」「暮らす」
居心地の良いまちになる。

2017
Vol.
5

【ジャーナル第5号の想い】

2017年2月16日発行

地域と共に自分を楽しみながら生きる。自分たちのまちは自分たちでつくる。

縁があって暮らし、働くまち、茅ヶ崎。受け入れられ、育てられ、見守られ…。だんだんと私もまちの人になってゆく。自分のまちを知り楽しむこと。発信して仲間を作ること。迷惑をかけながら関わり合うこと。ナショナルチェーンではなく、地域のモノや店を優先して使うことは、自分たちの生活、風景、未来を守るために「当たり前のこと」なのではないでしょうか。ローカルファーストに暮らすことで、まちは豊かになります。それは、自分にとって子ども達にとっても幸せなこと。

Live! Love! Local! みんなの好きな茅ヶ崎を、もっと素敵な茅ヶ崎に。

一人ひとりが地域に優しい選択を。今までも、これからも。ずっとローカルファーストで生きましょう!



Living in Local
Be Local
Local First is my place

CONTENTS

【特集:「Local First」クローゼイングイベント】
○ ALOHA CHRISTMAS ～ウィッシュツリー～
○ 「ローカルファースト」次へつなげる「カタチ」
【特集:ローカルファーストが「居場所」をつくる】
○ 366日の中で生まれた人のつながり(ワークショップ)
○ 「居場所」づくりの動きは広がりを見せている
文教大学修士課程 柴田春菜
○ 「居場所は響き合うギャザリングスペース」
株式会社商い創造研究所 代表取締役 松本大地
【特集:浜見平商店会広場イベント「50回目の誕生日会」】
【五感で感じるまち歩き】
○ 文教大学 山田ゼミ×ローカルファースト研究会
○ 「Local Firstはなぜ興味深いのでしょうか」
文教大学国際学部 山田修嗣准教授

【交差点をデザインする!】
○ 東海大学 学生発表
茅ヶ崎のストリート文化を発信する複合コミュニティ施設
【第4回ローカルファーストシンポジウム】
○ 「ローカル経済が日本を創る」開催報告
Information
○ 本誌にご協力いただいた方々
○ 第5回 ローカルファーストシンポジウム開催案内
/ 高松市丸亀町商店街視察



茅ヶ崎

ローカル ファースト ジャーナル



2017
Vol.
6

みんなの想いが
茅ヶ崎の「おいしい」を紡ぎだす。

熱いメッセージいっぱいのライフスタイルマガジン!

ローカルファーストが
つくる「食」のまち。

【ジャーナル第6号の想い】

2017年10月12日発行

自分の住むまちの魅力って何ですか。まちは誰が創っているんでしょう。

「Local First」は自分のまちについて考えること、地球に優しい選択をすること、地域で経済を回すこと、そしてふるさとの想いを引き継ぐこと。まちは創っているのは、そこで暮らす一人ひとり。一人ひとりのいくつもの選択がまちは創っているのです。意識しなくても「Local First」を実践している人もいます。でも、今「Local Firstで行きましょうよ!」と、誰かが大きく声をかけ、早い、安い、便利に引張られすぎた「私たち消費者の価値観」を、ローカルに引き戻す必要があるのではないのでしょうか。どこのまちに行っても金太郎アメみたいに同じ景色、同じモール、同じチェーン店ではつまらない。意識してローカルを選択していきましょう。ローカルをファーストしやすい環境を作りましょう。地域の誇りを育てましょう。大好きなまちの景色を守っていくのは、皆さんの心がけ一つです



LOCAL FIRST TRIAL
ローカルファーストトライアル

ローカルファーストジャーナル1号誌で取り上げた「EAT LOCAL」。今回改めて、まちなかで様々な食のトライアルを仕掛けてみました。1つ1つのTRYは小さくても一人ひとりの意識がLOCALに向けば、それは大きなうねりになる。そんな想いを込めて。

Eat Local
Choose Local
Do my Local First

CONTENTS

【特集：EAT LOCAL～まちなかシェフズミーティング】

- まちなかシェフズミーティング①
消費者の「選ぶ力」がまちを育てる
- アメリカ・ポートランド発「ローカルファースト」実践者の言葉
「教育」が育てる価値観
自然食レストラン「Chef Naoko」シェフ 田村なを子
- まちなかシェフズミーティング②
「一緒に何かやりましょうよ」茅ヶ崎ならではのコラボ感覚
- まちなかシェフズミーティング③
「もったいない」と「ひと手間」がチャンスを生み出す
- シェフズミーティングが美食都市をつかったサン・セバスティアン
株式会社商い創造研究所 代表取締役 松本大地
- まちなかシェフズミーティング④
子ども達に生き方を見せて「地域の力になりたい」
- まちなかシェフズミーティング⑤
自分が飾りたい花、食べたいもの、そして何ができるか

【私たちの Small DO】

- 【第5回ローカルファーストシンポジウム】
- 「持続可能な新しいスタイルの再生まちづくり」開催報告
- 【Information】
- ドイツ・フライブルクのまち歩き～ヨーロッパ視察より
- 本誌にご協力いただいた方々

茅ヶ崎

ローカル ファースト ジャーナル



2018
Vol.
7

熱いメッセージいっぱいのライフスタイルマガジン！
ローカルファーストで
スポーツコミュニティを
育む。

「気軽に」「楽しく」「元気になる」が
健康なまちづくりのキーワード。



2018年2月21日発行

【ジャーナル第7号の想い】

「する、見る、支える」スポーツとの関わり方はみんなそれぞれ自分らしく。
「自分の身体は一つしかないから」「最後まで自分の足で歩きたいから」まずは遊びから、まずは生活の中から、
集まって、触れ合って、楽しんで気軽に身体を動かしてみる。心を解放して、みんなで一緒に元気になる。

ローカルファーストコミュニケーションが健康なまちをつくります。



ローカルファーストとスポーツが健康なまちをつくる

「スポーツ」「健康」を切り口に、プロスポーツからまちのコミュニティ、そして地域の繋がりに文化や教育にも視点を広げて言葉を伺いました。共通する想いは「楽しむ」こと。地域で気軽にスポーツを楽しみながら築く健康的なまちづくりを考えます。

Take your time
Take your ways
Take your
Local First attitude

CONTENTS

【特集1：ローカルファーストとスポーツが健康なまちをつくる】

- ① 「気軽に」「楽しく」「本物と繋がる」それが地域に根ざすスポーツクラブを育てるカギ
- ② スポーツを通してまちのコミュニケーションをつくる
- ③ キーパーソンに訊く

【ローカルファーストを「学問」へ!】

- 文教大学 山田ゼミ×ローカルファースト研究会

【公園とスポーツとまちづくり】

【特集2：ローカルを編集する!つながる「まちコトバ」】

- 「このまちに住んでよかった」ローカルファーストのヒントがここに!

【まちなかシェフズミーティングのその後】

【茅ヶ崎ローカルファーストトライアル】

- 「シェフズミーティング」開催結果報告

【Information】

- スポーツや芸術が融合するまちづくり
- 本誌作成にご協力いただいた方々
- 神奈川県庁に黒岩知事を訪問



【ジャーナル第8号の想い】

文化とライフスタイル

それはまちの魅力になり、まちの活力の源になっています。新しい豊かさの物差しは地域の資本にあり、わたしたち一人ひとりが見つめ直し、磨き上げて行けば地域の未来を描くことができます。豊かな文化があるから豊かな暮らしができる。そして、ライフスタイルが豊かだから新しい文化が生まれる。ローカルファースト研究会は豊かさを追求しています。文化の先にあるもの、それこそが豊かさでありローカルファーストです。

2018年10月24日発行



ローカルファーストが文化をつくる

生活を向上させるものを文化といいます。ローカルファースト研究会は茅ヶ崎のライフスタイルと共にある文化について考えてみました。

Life with Culture
Life with Local
Local First makes our future

CONTENTS

【第8回ローカルファーストシンポジウム講師対談】

- 「楽しく生きる人を増やす」地域資本主義は新たな価値観
面白法人カヤック 代表取締役CEO 柳澤大輔

【特集：ローカルファーストが文化をつくる】

- ① 自由なライフスタイルで茅ヶ崎を映画のまちにする
- ② 地域との信頼関係こそ、「町の書店が生きる鍵」
- ③ 「幻想の茅ヶ崎」に見る茅ヶ崎の磁力、気質…湘南サウンドとは？
- ④ 口コミと周波数が生み出す茅ヶ崎路地裏コミュニティ

【茅ヶ崎は多士済々神奈川新聞でもっと発信を!】

神奈川新聞社 代表取締役社長 並木 裕之

【ローカルファースト培養への期待】

株式会社商い創造研究所 代表取締役 松本大地

【地域文化を大切にしたい大岡!大岡祭は市民の誇りを育む!】

【より茅ヶ崎らしい通りに!】

- 雄三通りで生み出される新しい文化の仕掛人
- 雄三通りスマイルプロジェクトの試み

【茅ヶ崎 Local Firstモデルの分析】

- ～ローカルファーストを「学問」へ!】
- 文教大学 山田ゼミ×ローカルファースト研究会

【私たちの Local First DO】

【第7回ローカルファーストシンポジウム】

- 「スポーツが健康なまちをつくる」開催報告

【Information】

- フランス・アンジェ・ボルドー・ピアリッツ のまち歩き
- 本誌作成にご協力いただいた方々

茅ヶ崎

ローカル ファースト ジャーナル



2019
Vol.
9

一人ひとりが「まち」なんだ。

熱いメッセージいっぱいのライフスタイルマガジン!

ローカルファーストが創る
賑わいのあるまち。

【ジャーナル第9号の想い】

未来へつなぐバトン

地域の数字を知る、地域の現実を見る、そして地域のために何が出来るかを一人ひとりが考える。自分の未来ではなく、子どもたちの未来、孫の未来までが見えていますか？ローカルファーストは一人ひとりの選択と行動の積み重ねです。1日に1つ、地域を思いやる具体的なアクションを。それを繰り返した先に豊かな地域の未来があります。それぞれの地域にそれぞれのローカルファースト。誇りと意思を持って、理想論を掲げ、地域の魅力を伝えていきましょう。豊かな日本の未来は私たち一人ひとりが創ります。

2019年11月13日発行



One for Local, All for Local

CONTENTS

【ローカルファーストの時代】

株式会社日本総合研究所首席研究員、地域エコノミスト 藻谷 浩介

【特集：ローカルファースト都市の挑戦】

- ① 都(みやこ)は歴史を変えない 歴史を変えるのは地方から
元地方創生・国家戦略特別区域担当国務大臣、衆議院議員 石破 茂
- ② 「ローカル店」と「ナショナルチェーン店」が共存する
日本一賑やかな商店街
長崎県 させほ四ヶ町商店街協同組合 相談役 竹本 慶三
- ③ 「まち」のビジョンを作りたい
埼玉県 所沢プロベ商店街振興組合 理事長 木下 健介
専務理事 井関 克行

【みんな、それぞれの『MYクラウン』がある!】

【パンを通して繋げるネットワーク】

【茅ヶ崎初! 漁業組合、飲食店、加工業者がひとつに! 茅ヶ崎地魚倶楽部】

【特集：ローカルファーストは持続可能な未来に何を創るか】

○ SDGs = Local First
防衛大臣、衆議院議員 河野 太郎

【1万人が100回訪れるまちを目指す!】

茅ヶ崎市長 佐藤 光

【私たちの Local First DO】

【湘南が生んだ! 育てた! マルチタレントDJ・HAGGY】
DJ・HAGGY

【茅ヶ崎の人物図鑑 作成中!!】

○ 文教大学 山田 修嗣ゼミ×ローカルファースト研究会

【第8回ローカルファーストシンポジウム】

○ 新しいワークライフスタイルを実現する茅ヶ崎資本主義へ

【Information】

- 『ちがさんぽ』いよいよ始動しました。
- 湘南ながうたの会

ジャーナル製作過程

1. テーマを決める
2. 発行日の決定
3. 取材対象の選定およびコンテンツの決定
4. 発行までの制作スケジュールを決める
企画・取材・撮影・原稿制作・編集・レイアウト制作・印刷・納品まで
5. 取材、撮影、原稿制作
6. 編集・レイアウト制作
7. 校正
8. 印刷



進行状況に合わせて
ジャーナル製作会議実施し、
情報の共有および
校正、進捗の確認を行う。

ローカルファーストを実践する

■ワークショップ・・・地元の飲食店、商店街を代表する方たちと、食や消費という観点でそれぞれの立場を通じた意見交換を、また地域の子供たちとは、茅ヶ崎をよく知り、深い理解と愛着で暮らす大切さと考えるワークショップを地元の大学生と一緒に開催しました。

■ローカルファースト教材作り・・・子どもたちのワークショップから展開した「教材作り」は、楽しく地域を知ってローカルファーストを考えるきっかけにするツールとして文教大学の学生と一緒に取り組んでいます。

■ぐるぐるグルメ・・・まち歩きに「食」をプラス。茅ヶ崎市内の飲食店を訪れ、店主のこだわりを聞きながら自慢の1品を一口サイズで食べる企画です。身近なのに知らない茅ヶ崎の味の発見、お店の魅力や想いを改めて知り「地元の店」を選ぶ消費行動へと繋げる目的があります。

■五感で感じるまち歩き・・・日頃、素通りするまちの中を、視点を変えて歩くといたるところで新たな魅力の発見につながります。この活動では「五感」を意識して、まちの雰囲気や自身の感覚で捉え、ワークシートに文字化する、というスタイルのまち歩きを実施しました。



ローカルファーストを実践する



◆茅ヶ崎市浜見平商店会 空き店舗事業 「ローカルファースト」

「LOCAL FIRST」の店は、
「神奈川県地域商業ブランド確立総合支援事業」の
支援を受け実施した事業の一つです。

高齢化が進み、活力を失いつつある地域の商店会において、リサイクル商品の委託販売や地元の手芸・クラフト作家への棚貸し等の商売を「媒介」に、
「地域の人が集まる交流拠点」を創り、
「賑わい」を生み出し、地域が活性化していくことを
目的とした「実験SHOP」です。

ローカルファーストが生み出す効果

- ◆まちに魅力ある個店が増えてくる
- ◆多世代の交流が活発になる
- ◆地域で経済が健全に回るようになる
- ◆将来の設計ができて、夢を持つことができる
- ◆将来に不安がなくなることで、今を豊かに暮らしていくことができる
- ◆まちに活力が創られる
- ◆まちに笑顔が溢れる



不安がなく、生きがいのある暮らしができること = それが本当の豊かさ

その豊かな暮らしは、**「ローカルファースト」な価値観を持った市民によって達成されていくと考えます**

全国でデザインキャンプ・シンポジウムの開催～ 2021-2022

富良野市デザインキャンプ

「新スタイル時代に向けた、富良野の地域戦略を考える。」

国土交通省官民連携都市再生推進事業(普及啓発事業)補助事業

富良野市において、構造変化に対応する新スタイルへの移行を目指す。未来を創るため、市民、行政、経済団体との連携により、地域課題を解決し、新たな時代に対応したまちづくりの方向性、方策等の検討を行うとともに、次世代を担う人材の育成とネットワークづくりを目指すためのデザイン思考のワークショップを開催します。

開催
令和3年 **11/4** 木 18:30～21:00

会場 富良野商工会議所(コンシェルジュフロア2階)大ホール

対象 次世代を担う市民、事業者、富良野市職員等

定員 **20名程度**
※コロナ禍を配慮

プログラム

- ①挨拶
ローカルファースト財団理事長・茅ヶ崎商工会議所会頭 亀井信幸氏
- ②オリエンテーション
- ③基調講演(情報提供・問題提起)
『仮演題:構造変化に応じたこれからのまちづくりの大切さ』
講師:和歌山大学副学長・教授 足立基浩氏
- ④グループ討議
【テーマ1】今後、まちを取り巻く環境はどのように変わるのか
【テーマ2】そのような中、まちを持続させ、さらに発展させていくために何を意識し、そしてどのように行動していくのか
- ⑤成果発表・講評
和歌山大学副学長・教授 足立基浩氏
ふらのまちづくり会社代表取締役社長 西本伸顕氏

主催:一般財団法人ローカルファースト財団 協力:富良野商工会議所、ふらのまちづくり会社、日本商工会議所
事務連絡先:ローカルファースト財団事務局 Tel.0467-57-8100

佐久市デザインキャンプ

「チーム佐久だからこそ可能な新たな時代に対応したまちづくりを考える。」

国土交通省官民連携都市再生推進事業(普及啓発事業)補助事業

佐久市における地域経済の好循環の創出と持続可能なまちづくりを進めるために、事業者、経済団体、行政とが連携し、一丸となって地域課題を解決し、連携による新たな方策の可能性を検討するためのデザイン思考によるワークショップを開催します。

定員 **20名程度**
※コロナ禍を配慮

開催
令和3年 **11/15** 月 13:00～17:00

会場 佐久平交流センター 3階視聴覚室・地域情報室

対象 次世代を担う市内事業者、市職員、佐久商工会議所職員等

※新型コロナウイルスの影響により内容が変わることもあります。

プログラム

- ①挨拶
ローカルファースト財団理事長・茅ヶ崎商工会議所会頭 亀井信幸氏
佐久市長 柳田清二氏
- ②オリエンテーション
- ③基調講演(情報提供・問題提起)
講演1『新たな時代における公民連携によるまちづくりを進めるために』
講師:地方自治体公民連携研究財団代表理事 蔵田幸三氏
講演2『新たな社会環境の変化の中における地域一丸となったまちづくりに必要なこと』
講師:株式会社創創研究所代表取締役 松本大地氏
- ④グループ討議
【テーマ1】今後、まちを取り巻く環境はどのように変わるのかとは何か
【テーマ2】環境の変化を踏まえ、まちを持続、発展させていくために、地域一丸となって取り組むべきことは何か。
- ⑤成果発表・講評
地方自治体公民連携研究財団代表理事 蔵田幸三氏
株式会社創創研究所代表取締役 松本大地氏

主催:一般財団法人ローカルファースト財団 事務連絡先:ローカルファースト財団事務局 Tel.0467-57-8100
協力:佐久市、佐久商工会議所、日本商工会議所、株式会社まちづくり佐久

高知市デザインキャンプ

「まちの人育て・歩いて楽しいまちづくりワークショップ」

国土交通省官民連携都市再生推進事業(普及啓発事業)補助事業

高知市の持続可能なまちづくりにおいて、基盤となり大切な役割を果たす商店街の活性化とウォーカブルシティの実現を図るため、地域(商店街)の課題、新たなニーズの発見、共感や歩いて楽しいまちづくりのアイデアの創出等を行うとともに、あわせて、担い手となる新たな人材の育成を目指すワークショップを開催します。

定員 **20名程度**
※コロナ禍を配慮

開催
令和3年 **12/1** 水 13:00～17:00

会場 高知商工会館3階審の間

対象 市内商店会関係者等

※新型コロナウイルスの影響により内容が変わることもあります。

プログラム

- ①挨拶
ローカルファースト財団理事長・茅ヶ崎商工会議所会頭 亀井信幸氏
- ②オリエンテーション
- ③基調講演(情報提供・問題提起)
講演1『仮演題:回遊性のあるまちづくりの仕掛け方』
講師:和歌山大学副学長・教授 足立基浩氏
講演2『まちづくりの実際』
講師:全国商店街振興組合連合会理事長 阿部真一氏
情報提供 データを見る高知市の地域経済 ローカルファースト財団事務局
- ④グループ討議
【テーマ1】新たな時代における持続可能で歩いて楽しいまちづくりとは何か
【テーマ2】まちづくりにおける商店街の役割と持続的に発展していく商店街を形成するためにやるべきことは何か(短期・中期)
- ⑤成果発表・講評
和歌山大学副学長・教授 足立基浩氏

主催:一般財団法人ローカルファースト財団 事務連絡先:ローカルファースト財団事務局 Tel.0467-57-8100
協力:高知商工会議所、高知市商店街振興組合連合会、日本商工会議所

ローカルファーストシンポジウムin富山

行政と民間が連携して地域を育てていくために

国土交通省官民連携都市再生推進事業

ローカルファーストの重要な拠点の一つである行政が民間の力を活用して地域を育てる。この先進地域である富山においてシンポジウムを開催し、富山の取組み、国内各地で実施したデザインキャンプの報告と合わせてローカルファーストによる官民連携のまちづくりを広げたい旨に発信します。

定員 **200名** **参加無料**

2022年 **3月12** 日(土)

時間:13:20～17:30 (13:00開場)

会場:富山国際会議場(メインホール)
【ハイブリッド開催】※オンライン同時配信

講演
特別講演 基調講演① 基調講演② 講演
●ハネルディスカッション
「行政と民間が連携して地域を育てていくために」

特別講演 基調講演① 基調講演② ハネルディスカッションの司会者

特別講演 基調講演① 基調講演② ハネルディスカッションの司会者

特別講演 基調講演① 基調講演② ハネルディスカッションの司会者

特別講演 基調講演① 基調講演② ハネルディスカッションの司会者

講演:国土交通省都市再生推進課 小路 剛志氏

主催:一般財団法人ローカルファースト財団
後援:富山県、富山市、富山商工会議所、日本商工会議所
協力:国土交通省

【問合せ先】
一般財団法人ローカルファースト財団事務局
Tel.0467-57-8100

※感染症対策の状況により、オンライン方式での開催の可能性もあります。

北海道 富良野市

長野県 佐久市

高知県 高知市

富山県 富山市

全国でデザインキャンプ・シンポジウムの開催～ 2022-2023

浜田市デザインキャンプ

「若者が暮らしたい魅力あるまちづくりを考える。」

令和4年度国土交通省官民連携都市再生事業普及啓発事業

浜田市における地域経済の好循環の創出と持続可能なまちづくりを進めるために、事業者、経済団体、行政と連携し、一丸となって地域課題を解決し、連携による新たな方策の可能性を検討するためのデザイン思考によるワークショップを開催します。

定員 30名程度
※コロナ禍を配慮

開催 令和4年 **10/17** 月 13:00～17:30

会場 浜田市役所本庁舎4階講堂

対象 浜田商工会議所青年部、石央商工会青年部、事務局職員及び浜田市職員等の次世代を担う若手層

プログラム ※新型コロナウイルスの影響により内容が変わることもあります。

- ① 開会挨拶
 - ・ローカルファースト財団理事長・第9崎商工会議所会頭 亀井信幸氏
 - ・浜田市長 久保田康平氏
- ② オリエンテーション
- ③ 情報提供
 - ・浜田市の地域経済分析
 - ・民間主導のまち育て・再生実践マニュアル(日本商工会議所作成資料)
 - ・ローカルファーストによるまちづくりの考え方
- ④ 基調講演
 - ・テーマに基づく基調講演 ※演題未定
 - 講師：和歌山大学副学長・教授 足立基浩氏
- ⑤ グループ討議
 - 議題1 今後、まちを取り巻く環境はどのように変わるのか。
 - 議題2 環境の変化を踏まえ、まちを持続、発展させていくためには、事業者の存在が不可欠である。事業者が暮らしたい、若者が暮らすべきまちづくりはどのようなものか。
 - 議題3 そのまちづくりを進めるために、地域一丸となって取り組むべきことは何か。また、新たなまちづくりを担っていく人材をどのように育成していくか。
- ⑥ 成果発表・講評
 - ・和歌山大学副学長・教授 足立基浩氏
- ⑦ 閉会挨拶
 - ・ローカルファースト財団理事長・全国商店街振興組合連合会理事長 阿部真一氏

主催：一般財団法人ローカルファースト財団 事務連絡先：ローカルファースト財団事務局 Tel.0467-57-8100
後援：浜田市、浜田商工会議所、石央商工会 協力：日本商工会議所

青森市デザインキャンプ

「地域一丸となって取り組むべき新たな時代に対応したまちづくりを考える。」

令和4年度国土交通省官民連携都市再生事業普及啓発事業

青森市における地域経済の好循環の創出と持続可能なまちづくりを進めるために、事業者、経済団体、行政と連携し、一丸となって地域課題を解決し、連携による新たな方策の可能性を検討するためのデザイン思考によるワークショップを開催します。

定員 20名～30名程度
※コロナ禍を配慮

開催 令和4年 **11/11** 金 13:00～17:30

会場 青森商工議事所会館7階研修室

対象 市内事業者、商工会議所職員、市職員等で次世代を担う若手層

プログラム ※新型コロナウイルスの影響により内容が変わることもあります。

- ① 開会挨拶
 - ・ローカルファースト財団理事長・第9崎商工会議所会頭 亀井信幸氏
- ② オリエンテーション
- ③ 情報提供
 - ・青森市の地域経済分析
 - ・民間主導のまち育て・再生実践マニュアル(日本商工会議所作成資料)
 - ・ローカルファーストによるまちづくりの考え方
- ④ 基調講演
 - ・テーマに基づく基調講演 ※演題未定
 - 講師：日本経済研究所公共デザイン本部副本部長 鶴殿裕氏
- ⑤ グループ討議
 - 議題1 今後、まちを取り巻く環境はどのように変わるのか。
 - 議題2 環境の変化を踏まえ、まちを持続、発展させていくために、地域一丸となって取り組むべきことは何か。
- ⑥ 成果発表・講評
 - ・鶴殿裕氏 亀井信幸氏
- ⑦ 閉会挨拶
 - ・ローカルファースト財団理事長・全国商店街振興組合連合会理事長 阿部真一氏

主催：一般財団法人ローカルファースト財団 事務連絡先：ローカルファースト財団事務局 Tel.0467-57-8100
協力：青森市、青森商工会議所、日本商工会議所

福知山市デザインキャンプ

「チーム福知山だからこそ可能な新たな時代に対応したまちづくりを考える。」

令和4年度国土交通省官民連携都市再生事業普及啓発事業

福知山市における地域経済の好循環の創出と持続可能なまちづくりを進めるために、事業者、経済団体、行政と連携し、一丸となって地域課題を解決し、連携による新たな方策の可能性を検討するためのデザイン思考によるワークショップを開催します。

定員 20名～30名程度
※コロナ禍を配慮

開催 令和5年 **2/13** 月 13:00～17:00

会場 福知山市市民交流プラザ

対象 市内事業者、商工会議所職員、市職員等で次世代を担う若手層

プログラム ※新型コロナウイルスの影響により内容が変わることもあります。

- ① 開会挨拶
 - ・ローカルファースト財団理事長・第9崎商工会議所会頭 亀井信幸氏
- ② オリエンテーション
- ③ 情報提供
 - ・ローカルファーストによるまちづくりの考え方(ローカルファースト財団作成資料)
 - ・民間主導のまち育て・再生実践マニュアル(日本商工会議所作成資料)
- ④ 基調講演
 - ・テーマに基づく基調講演 ※演題未定 福知山市の地域経済環境の状況を説明
 - 講師：日本経済研究所公共デザイン本部副本部長 鶴殿裕氏
- ⑤ アイスブレイク
- ⑥ グループ討議
 - 議題1 今後、まちを取り巻く環境はどのように変わるのか。
 - 議題2 環境の変化を踏まえ、まちを持続、発展させていくために、地域一丸となって取り組むべきことは何か。
- ⑦ 成果発表・講評
 - ・鶴殿裕氏 亀井信幸氏
- ⑧ 閉会挨拶
 - ・ローカルファースト財団理事長・全国商店街振興組合連合会理事長 阿部真一氏

主催：一般財団法人ローカルファースト財団 事務連絡先：ローカルファースト財団事務局 Tel.0467-57-8100
協力：福知山市、福知山商工会議所、日本商工会議所

ローカルファーストシンポジウム in 和歌山

官民連携によるローカルファーストのまちづくりを進めるために

国土交通省官民連携都市再生推進事業

地域一丸となってローカルファーストのまちづくりを進めたい。先進地である和歌山においてシンポジウムを開催し、和歌山市の取組み、国内34地区で実施するデザインキャンプの報告とあわせて、行政と民間が連携したローカルファーストのまちづくりの意義とその進め方を全国に発信します。

参加無料

2023年 1月16日(月)
時間：13:30～17:30 (13:00開場)
会場：和歌山城ホール・大ホール

定員 500名

講演
基調講演① 基調講演② 基調講演③
デザインキャンプ概要報告
浜田市・青森市・福知山市

基調講演① 国土交通省特命担当大臣 天河 宏文氏	基調講演② 和歌山市長 尾花 正啓氏	基調講演③ 和歌山大学副学長 藤谷 浩介氏	ファシリテーター 和歌山大学准教授 足立 基浩氏
--------------------------------	--------------------------	-----------------------------	--------------------------------

パネルディスカッション
「民間官民連携によるローカルファーストのまちづくりを進めるために」
主催：一般財団法人ローカルファースト財団
後援：和歌山市、和歌山商工会議所、日本商工会議所

【お問合せ先】
一般財団法人ローカルファースト財団事務局
Tel.0467-57-8100

こちらのQRコードから参加お申込みができます。
[www.local-first.info]
FAX:デザイン課宛をご利用ください。

鳥取県 浜田市

青森県 青森市

京都府 福知山市

和歌山県 和歌山市

2月13日 開催予定